

北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (整理番号)	婦人科悪性腫瘍における、化学放射線療法、免疫チェックポイント阻害薬および PARP 阻害薬の効果予測因子としての REV7 発現の検討 (B25-068)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部産婦人科学 助教 太田真見子
他の研究機関 および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	ヒトのあらゆる腫瘍は遺伝子の病気であり、様々な機序による DNA の異常とその蓄積によって引き起こされます。様々な原因によって起こる DNA 損傷は、修復されなかった場合に突然変異が誘発される可能性があり、発癌課程において重要な因子です。 REV7 は DNA 損傷による突然変異導入において重要な役割を担っている蛋白です。遺伝子突然変異導入と発癌ならびに癌の進展・治療に大きな影響を与えていると考えられています。REV7 はいくつかの癌の治療反応性に関与していることが明らかになっていますが、REV7 の婦人科悪性腫瘍(子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌・卵管癌・腹膜癌)については、未だに検討されていません。そのため、我々は婦人科悪性腫瘍の新たな治療の可能性を検討する意味もこめて、婦人科悪性腫瘍に対する治療の有効性に REV7 が関与しているという研究仮説を打ち立てました。 本研究の目的は、REV7 発現が婦人科悪性腫瘍に対する治療の有効性に関与しているかどうかを明らかにすることです。
調査データ 該当期間	2015 年 1 月 1 日から研究機関の長の許可日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	2015 年 1 月 1 日から研究機関の長の許可日までの期間に北里大学病院で婦人科悪性腫瘍に対する治療を受けられた方。
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報： 2015 年 1 月 1 日から研究機関の長の許可日までの電子カルテに記載のある病理検体、診療記録、検査データを利用します。
試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
利用又は提供を開始 する予定日	利用又は提供開始予定日： 研究機関の長の許可日から
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究の遂行のための費用は産婦人科学医局研究費、病理学（村雲）単位一般研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会にて審査を受け適切に管理されます。

お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：北里大学産婦人科学・助教 担 当 者：太田 真見子（オオタマミコ） 電 話：042-778-8111
備 考	